



まだまだ雪だ もっと掘れ

肘折・地面出し競争 国内外から参戦

「地面出し競争World Cup in 肘折」が26日、大蔵村の肘折生涯学習センターで開かれ、国内外からの参加者が会場に積もった264センチの雪を懸命に掘り進めた。村の総合型地域スポーツクラブ「Oh-蔵SPORT」が主催し8回目。県内をはじめ、韓国、台湾などから36チーム、総勢191人が参加した。スコップやスノーダンプを使って直径4メートルのフィールド内で雪を掘り、地面の土を審判に届けるまでのタイムを競った。

その滑走距離の長さでフィールドの位置を決める予選「ソリンピック」を行った後、ほら貝の合図で競技スタート。参加者は役割分担や掘る



形を工夫し、汗を流しながら掘り進めていた。優勝タイムは6分14秒で、地元の「LOVE SNOW」が4連覇を果たした。一方、君(14)は「学校でも練習した初出場で最年少の真室川中野球部は30分を越えても終わらず大苦戦。同校2年梁瀬敬多

君(14)は「学校でも練習したけど、肘折は別格だった。来年は後輩に託したい」と話し

仲間の声援を受けながら深さ2メートル超の雪を掘り進める参加者＝大蔵村・肘折生涯学習センターグラウンド

